

告 辞

秋の彼岸も過ぎて、風の冷たさに秋の気配を感じるようになりました本日、ここに、ご来賓ならびに関係各位のご臨席のもと、佛教大学通信教育課程、第18回後期大学院学位記、第62回後期卒業証書授与式、ならびに、第66回後期卒業証書授与式を挙行できますことは、大きな喜びであります。修了生・卒業生の皆様、本当におめでとうございます。皆さんの修了・卒業を、佛教大学関係者一同、心からお祝い申し上げます。

本日皆様がこの喜びの日を迎えることができたのは、お一人お一人の努力の賜物であることは勿論のことですが、それに加えて皆さんを支え、温かく見守ってこられたご家族や保護者、友人の方々などのご理解やご支援があつてのことです。ご家族など関係の皆様には、今日までのご苦勞に敬意を表しますとともに、心よりお慶びを申し上げます。

修了・卒業されます皆様は、通信教育あるいは通学といった課程の違いや、専攻、学部、学科など、学修方法や学ばれた専門領域にそれぞれ違いはありますが、すべての方がこの佛教大学で一定の期間を過ごされ、本学の建学の理念である仏教精神に基づいて、様々な形で展開・提供されている教育により、佛教大学人として備えていただくべき人間性や専門性を身に付けていただいたものと信じます。それは集約して「智慧と慈悲」、そして「精進」ということであります。

智慧は、種々に得てきた知識を自らの生きる力へと転換すること、慈悲は生かされてある自分であることを悟り、他と共に生きて行こうとの心を常にもつこと、そしてそれを忍耐の心を持って「しつづける」ことであります。これらを実践することができるこそ、佛教大学を卒業されることの証であると思います。

これから社会でそれぞれの道を生きてゆかれることとなりますが、世界に思いを遣りますと、地球環境の悪化、それによる自然災害の増加、民族間・宗教間の対立の激化、社会格差や生活への不安など、社会は様々な課題を抱え、混迷の度を深めつつあります。このような時代を生きるからこそ、自分自身をしっかりと見つめつつ、学んだことを先ずは自分が生きてゆく力へと転換し、そして共に生きる人々のために活動し、社会に貢献できる人であることが期待されるわけであります。

「人間だけなのである。自分の心ひとつで、飲みたいもの、食べたいもの、行きたいところ、したいことを決めることができるのは」と言われます。これら四つで大体私たちの人生ということになります。したがって、人間だけが自分の心ひとつで自分の人生を形成してゆくことができるということになります。本学の卒業生として自信をもって、是非大いなる人生を喜々として歩んでください。

本日をもって、修了生・卒業生の皆様の、本学での学びは一旦修了することとなりますが、それぞれの人生における学びが終わるわけではなく、生涯にわたる学修はこれからも続いてゆくことでしょう。本学はその歴史と伝統を踏まえながら、困難な社会状況においても、自立した一人の人間として力強く生きてゆく為の総合的な力を養うことのできる学修の場を提供し、生涯学習社会の実現に向けた取り組みを積極的に推進してまいります。

今後の皆様の社会におけるご活躍を祈念しますとともに、卒業生として母校をご支援いただきますことをお願いいたします。

あらためて、皆様の修了・卒業を心から祝福し、告辞いたします。
修了・卒業、おめでとうございます。

平成30年9月30日

佛教大学長 田 中 典 彦